

# 防災(避難)訓練実施

平成19年10月7日(日)



少子高齢化が進むホ号棟にとって、年々現実味をおびてゆく震災時の不安。ホ号棟では、

①老朽化する建物の耐震構造への不信

②人口の3割を越す高齢者、障害者、乳幼児などの災害被害の懸念を現実的にどう対処していくかということを中心的なテーマとして、

今年度も【防災(避難)訓練】を実施いたしました。

防災対策委員会や理事会で決定した訓練日程に沿って、各棟の階段委員を中心に、さる山公園までの避難行動が実施されたのです。

当日は、これ以上はないと思われるほどの快晴で、雨天馴れしている昨今の管理組合としては、願ったり叶ったり・・・。

朝8時30分からの実施放送に引き続き、炊き出し訓練や会場設営などテキパキと進められました。

調布消防署も全面的に協力をして下さり、赤い消防車で「本日は、10時から避難訓練が実施されます」とホ号棟をくまなく回って広報をしてくださいました。

10時になり、各理事が各棟南側の広場からサイレンを鳴らし

「防災(避難)訓練」が開始されました。



各階段で呼びかけあって、階段下に集合し、階段委員が参加者の安全と人数を確認します。その後、東西の市道に待機している理事と共にさる山公園へ避難をすることが第一部の目的でした。

会場のさる山公園には、消防隊と本部が設置されて待機していました。

理事が持つ各棟別のプラカードを先頭に、次々と訓練参加者が集合してきます。赤ちゃんも小学生もお年寄りも一団となって避難をしてきました。



いました。約10～15分後に無事に車イスに乗って避難場所のさる山公園に到着し、会場の拍手を浴びました。臨時救出班のみなさんご苦労さまでした。だが、さる山公園の人だかりやマイクの声などに誘われて、その後も個別に入場してくる人も目立ちました。途中から、炊き出しの弁当詰めなども終わり、時間の関係とあまりの日照の強さに、各人へ災害備蓄食料の配布も始まりました。



みなさんお疲れさまでした。

調布消防署国領出張所のみなさんありがとうございました。

「避難」する時は、ひとりで逃げないこと。必ず隣近所声をかけあって、お互いが支えあいながら避難いたしましょう!!

さる山公園に敷かれたシートに階段委員や理事の指示で秩序ただしく座っていきます。太陽はさんさんと照らし続け、座っていても汗ばみます。

防災（避難）訓練参加者の安全と人数を確認しているとき、11号棟の高齢女性2人が、自宅に取り残されていると報告が本部に届けられました。車イス2台に若者4名と理事2名がそれぞれにチームをつくり救出に向か



アルファ化米・クラッカー・飴が1人分ですが、子どもには、その他に『お菓子セット』も配られました。集会室で前日から準備をし、当日も朝早くからお湯を沸かし、弁当作りなどに大わらわだった。炊き出し班のみなさん、ありがとうございました。やがてホ号棟防災倉庫の備蓄品の紹介などがあり、訓練が終了したのが11時30分頃。